

「イスラエル建国史」

9. 第1回シオニスト コンGRESS

ユダヤ・中東研究家 滝川 義人



滝川 義人
Takigawa Yoshito

1937年長崎県生まれ。
早稲田大学第一文学部
卒業。イスラエル大使

館チーフ・インフォメーション・オフィサー
(1968～2004)として勤務。

現在、MEMRI（メモリ、中東報道研究機関）
日本代表。ユダヤ、中東研究者。

主要著書：『ユダヤ解説のキーワード』（新
潮社）、『ユダヤを知る事典』（東京堂出版）
など多数。

CONGRESS参加者

開催前日になると、列車が到着する度に参加者が降り立つ。ロシア、東欧そして西欧の16か国から来た人々で、長旅のため全員が煤煙を浴び、薄黒く汚れていた。一番遠くから来たのはアメリカのニューヨークからで、在米ホベベイ・ツィオンの活動家アダム・ローゼンベルク（1858～1928）であった。



CONGRESSへの参加証

会メンバーに選ばれ、第3回以降世界シオニスト機構のコーカサス・エカテリノスラフ地方代表として行動した。1923年からユダヤ民族基金の会長を務めている。

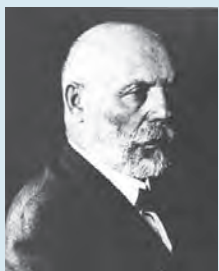
一方、ドイツ、オーストリア、ガリシア地方のホベベイ・ツィオン協会は、1897年3月6日ウィーンに集まり、シオニストCONGRESS開催提案を支持した。



第1回シオニストCONGRESS

正式の代表参加者は一応196名（内、女性14名）であるが、実際には200名以上出席した。しかし、正確な数は不明である。様子を窺うため、オブザーバーとして出席した人もおり、その数は記録されていない。

ヘルツェルの政治シオニズム運動に先行したホベベイ・ツィオン運動は、大筋においてシオニストCONGRESS参加で一致した。イギリスからは、ザングウィルを初めホベベイ・ツィオン関係者8名が参加した。しかし、ザングウィルは末席に陣取り、オブザーバーのような態度で、討論を観察していた。



メナヘム・ウシシュキン

ウシシュキンは、1896年の夏ウィーンでヘルツェルと会った。そして、第1回CONGRESSに出席した（第2回で行動委員

世紀の「ユダヤ人議会」

開催初日の8月29日は日曜日、朝から暑い日であった。普通コンサートホールとして使われている会場の入り口には、ドイツ語でチオニステンCONGRESSと大書し、その上にダビデの星のマーク、そしてシオニスト旗のデザインを配した看板が、掲げられた。



CONGRESSが開催された
バーゼルのコンサートホール

会場の客席は人であふれ返った。当時バーゼルのユダヤ人人口は約2,000人。ユダヤ人社会として正式参加はなかったが、学生などが個人的に会場に来たのである。バーゼル市長のカール・シュパイザー博士は

来賓として出席した。キリスト教徒で関心を寄せる人も多く、世紀の「ユダヤ人議会」、開催を一目見ようと、会場に詰めかけた。

壇上は緑の色調で統一され、記者席、速記者席も設けられていた。代表200余名は、全員白のタイに燕尾服姿で着席した。ヘルツェルが、歴史的な会合と考え、それにふさわしい服装を要求したのである。公式使用言語はドイツ語。ドイツ語が分からぬ代表のために、ヘブライ語、露語そして英語の通訳が待機した。

開催宣言をしたのは、ルーマニア出身の医師カルペル・リッペ（1830～1915）である。サムエル・ピレネス（1843～1928）と共に、ルーマニアのホベベイ・ツィオン運動を率いる人物であった。

ヘルツェルは、延々と続くリッペの開催宣言をいらいらして聞いていたが、終わるとすぐに演壇に上がり、これまでの経緯について熱弁をふるった。そして、「我々は重大な任務を持っている。我々は家の礎石

をすえたい。いつの日かユダヤ民族を守るどころとなる家を」と結んで万雷の拍手を浴びた。

ヘルツェルを熱情の人とすれば、ノルダウは理知の人であり、2番手に登場して、3つの悲惨、すなわち、ユダヤ人であるが故に味わう悲惨、貧民レベルにある困窮の悲惨、そして頼りにした解放に裏切られた悲惨について語り、シオニズムは、「安全を守る社会、慈愛の社会、組織力を発揮して民族本来の資質を存分にのぼせる社会」の建設を目指すとして述べ、出席者の間に深い感動を呼んだ。



第1回シオニスト会議のシンボル

シオニスト会議の成果

第1回シオニスト会議は、次の重要な成果をあげた。即ち、運動の推進母体として世界シオニスト機構を設立し、その機構の基本方針を採択するとともに、その遂行手段を決めたのである。

I 推進母体の創設と基本方針の決定 世界シオニスト機構 (WZO)

シオニスト機構は、「シオニストの基本方針を受け入れ、シェケルを払うユダヤ人で構成される組織」と定義される。シェケルは、出エジプト記 30:13 に由来し、平たく言えば会費であると同時に、投票権を意味する。機構の最高議決機関がシオニスト会議である。

その基本方針はバーゼル綱領と呼ばれ、原文はドイツ語、次の4項目より成る。

バーゼル綱領

シオニズムは、パレスチナにおける、公法で保証されたユダヤ民族の郷土建設を目的とする。この目的を達成するため、会議は、次の方法を考慮する。

1. ユダヤ人農夫、工芸職人、および、商人によるパレスチナ開拓の推進。
2. 諸国の法に従い、地方組織と全体組織を通じた、ユダヤ人社会全体の組織化と統一。

3. ユダヤ人の民族感情と民族意識の覚醒並びに涵養。
4. シオニズムの目的達成に必要な、諸国政府の同意を取りつけるための工作。

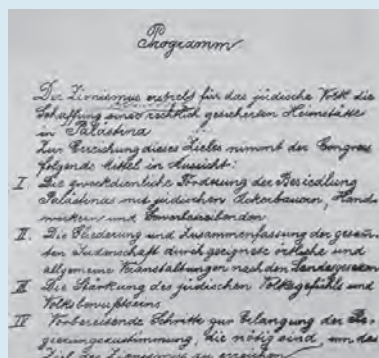
II ユダヤ入植信託 (Jewish Colonial Trust)

第1回会議で提議され、第2回で決まった組織である。シオニスト機構の経済、財政部門として設置された。ヘルツェルは、ヨーロッパのユダヤ人富豪の資金援助で、運動を推進しようと考えた。しかし、体よく断られ、大衆1人1人を株主とする方式に切り換えたのである。この機関は1899年にロンドンで会社組織として登記され、3年後に活動を開始した。授権資本200万英ポンド。

この機関はアングロ・パレスチナ社(後にアングロ・パレスチナ銀行を経てレウミ銀行になった。イスラエルで一番古い銀行である)を設置し、いろいろな事業を展開した。今も残るのは、銀行とパレスチナ電力会社の後身イスラエル電力公社である。

III ユダヤ民族基金 (Jewish National Fund JNF、ケレン・カエメット)

第1回会議で提案され、実現したのは第5回(1901年)の時。ユダヤ人大衆から寄付を募り、その寄付金でエрецイスラエルの土地を購入するのが、基金の任務である(購入地は公有地となる。JNFは、1947年11月29日の国連分割決議日までに、23万2,000エーカーを購入した)。



バーゼル綱領

ホベベイ・ツィオン運動は、ほぼ全団体が、新しく作られた世界シオニスト機構に参加し、具体的実践的事業の促進を要求した。ヘルツェルが、外交活動に重点を置くのに対し、ホベベイ・ツィオンの人々は、エрецイスラエルへの入植と開拓を中心に考えていた。運動は機構に参加したもの、引き続き個別の組織として存在し、ウシシュキンが会長(1906~19)を務めた。しかし、実践派で知られるオットー・ワープルク教授が1903年以降世界シオニスト機構で活動し、1911年から第3代会長になって、具体的実践事業が本格化したことから、ホベベイ・ツィオン運動との違いはなくなり、運動は存在意義を失った。そして1920年、ソ連当局が非合法化したため、運動は消滅した。

第1回シオニスト会議は、8月31日に終わり、運動は組織的に動くことになった。ヘルツェルは、高揚した気分、次のように日記に書いた。

「シオニスト会議を一言で総括すれば、もちろん公には口にしないが、バーゼルで私がユダヤ人国家を建設したということだ。今日このようなことを声を大にして叫ぶなら、世界中から笑いのものにされるだろう。多分5年で、いや50年もすれば確実に誰でも理解するだろう。国家の核心は人民の意志にあることを。…左様、個人であっても、1人の強い意志があれば。国家、それは朕である」(1897年9月3日付ヘルツェル日記)

太陽王ルイ14世の「朕は国家なり」を引用したところに、カリスマ性のあるヘルツェルの気概と強い意志が読みとれる。しかし、ヘルツェル、ひいてはシオニズム運動の前には、克服しなければならぬ難問が、いくつも待ち構えていた。緊急事態もすぐ発生した。